

令和8年度 調布市立石原小学校 学校経営計画（学校長 飯島 慶裕）

学校の教育目標	
◎ なかよく助け合う子 ○ 根気よく学ぶ子 ○ 明るく元気な子	
目指す学校像(ビジョン) 例) 学校像、教員像、児童・生徒像	
だれでも認め合い みんなで育ち合う 笑顔あふれる学校	
ビジョンの設定理由 (本校の現状と課題)	<p>(1) 保護者や地域とともに歩む学校 子供は、学校・保護者・地域の三者で育ててこそ、健やかに成長することができる。家庭や地域等と連携し、協力し合いながら地域に根差した教育活動を推進する。大人になっても、学んだことを誇れる石原小学校であり続けることを目指す。 →誇れる笑顔</p> <p>(2) お互いを尊重し合いながら学ぶ学校 教師と子供、教師と保護者、保護者と子供だけでなく、教師同士、子供同士、保護者同士が相手を尊重し、認め合う中でこそ、子供は心身共に健やかに成長することができる。子供一人一人のよさや可能性を見だし、伸ばしていく教育活動を推進する。 →認められる笑顔</p> <p>(3) 教職員にとって、自信と誇りをもってやりがいの感じられる学校 失敗を恐れず、次のステップへつなげていくことを重視する。教師のやる気は、子供たちの学習への原動力となる。教職員一人一人が、創意工夫しながら新しいことにチャレンジしていく教育活動を推進する。 →やる気のある笑顔</p> <p>(4) 子供にとって、安心して通える学校 様々な災害や日常生活での危険に対する正しい知識と、自らの命を守る対応力や予知・回避能力を高める活動を充実させる。また、食物アレルギーの対応を確実にし、誤配・誤食を防止し、子供の命を守る。 →安心の笑顔</p>
中期的な経営目標	
<p>1 全教育活動を通して、児童一人一人の人権感覚を高める。(いじめの未然防止 自他の生命の尊重 善悪の判断 自己肯定感を高める)</p> <p>2 児童の学習意欲の向上を図り、基礎的・基本的な学力を定着させるとともに、思考力・判断力・表現力の向上のために、指導法の工夫改善を行うために、計画的な教育活動を推進する。(ペア学習・学び合い学習等)</p> <p>3 児童自ら健康で安全に生活する力を育むために、学校・家庭・地域が連携して、交通事故、熱中症、防災(地震、風水害)、不審者等に対する体制を推進する。</p> <p>4 ICT機器を積極的に活用した授業改善を行うとともに、情報モラル教育を推進する。</p> <p>5 関係諸機関と連携しながら、児童一人一人の課題に柔軟に対応し、育成を図る。</p> <p>6 コミュニティ・スクールとして、学校運営協議会で話し合い、地域学校協働本部を活用し、地域・保護者・学校の三者が一体となって、地域に根差した教育活動を推進する。</p> <p>人・組 ・ 服務規律の徹底 ・ ライフ・ワークバランスの推進</p>	

調布市立学校における共通した領域 <短期的な経営目標>		
1 豊かな心(徳)	2 確かな学力(知)	3 健やかな体(体)
(1) 取組目標(具体的方策)	(1) 取組目標(具体的方策)	(1) 取組目標(具体的方策)
① 年11回のたて割り班活動や学級での活動などを通して、児童の自己肯定感を高める。	① 週2回の朝学習を継続して行い、計算や漢字の読み書きなどの基礎的学力の定着を図る。	① 縄跳び、持久走、体育の授業やちょこプラ1調布の取組をとおして、日常的な運動を行う。
② 年3回のいじめに関する道徳の授業、人権尊重に関する年10回の校長講話等を通して、思いやりの心を育む。	② 児童が自ら考え、表現する場を毎時間設定し、学習意欲の向上を図る。	② 毎月保健だより、給食だよりを発行し、食事と健康の関係について児童並びに保護者へ啓発し、食生活を改善する。
(2) 成果目標(数値目標)	(2) 成果目標(数値目標)	(2) 成果目標(数値目標)
① 児童アンケート「自分には、よいところがある」の項目で、肯定的な評価9割以上を目指す。	① 児童アンケートによる「学校の勉強は楽しい」の項目で、低中学年で9割以上、高学年で8割以上の肯定的な評価を目指す。また、保護者アンケートによる「子供は基本的な学力を身に付けている」の項目で、肯定的な評価8割以上を目指す。	① 児童アンケートによる「運動やスポーツをすることが好きである」の項目で、低中学年で9割以上、高学年で8割以上の肯定的な評価を目指す。
② 児童アンケート「言葉づかいに気を付けて生活している」の項目で、肯定的な評価9割以上を目指す。	② 児童アンケート「授業中、自分の考えを進んで発言している」の項目で、肯定的な評価9割以上を目指す。	② 児童アンケートによる「毎日朝食を食べている」の項目で、低中学年で100%、高学年で95%以上の肯定的な評価を目指す。
学校の特色を生かした領域 <短期的な経営目標>		
4 特別支援教育の推進	5 地域と連携した教育活動の推進	6 教育機器活用による授業改善
(1) 取組目標(具体的方策)	(1) 取組目標(具体的方策)	(1) 取組目標(具体的方策)
① 個別指導計画・支援計画、就学支援シート等を活用し、週1回以上スクールソーシャルワーカー・スクールカウンセラー等と情報共有し、連携しながら個に応じた支援を行う。毎月1回以上校内委員会を行う。	① 地域学校協働本部と連携し、第2学年において、「九九クリニック」を30回以上実施し、九九を定着させる。	① 児童が主体的に学習課題に取り組むよう、毎日1回以上、児童用タブレットを活用した授業を行う。
② ユニバーサルデザインを踏まえた教室環境の整備を行う。	② 地域学習・校外学習・ゲストティーチャー・実習補助等で、地域と連携した授業を10回以上行う。	② 「GIGAワークブックとうきょう」等を活用しながら情報モラル教育を進めることで、児童はSNS等の情報発信のルールや危険性を

		理解し、安全に情報機器を活用する知識や技能、情報活用能力を身に付ける。
(2) 成果目標（数値目標）	(2) 成果目標（数値目標）	(2) 成果目標（数値目標）
① 教職員アンケートで、4段階評価における平均3.7以上を目指す。また、児童アンケート「画工に来るのは楽しい」の項目で、肯定的な評価8割以上を目指す。	① 第2学年における九九の定着率9割以上を目指す。	① 児童アンケート「タブレットを使った学習は楽しい」の項目で、肯定的な評価9割以上を目指す。
② 教職員アンケートで、4段階評価における平均3.5以上を目指す。	② 保護者アンケートによる「学校は、地域と連携しながら教育活動を行っている」の項目で、肯定的な評価8割以上を目指す。	② 児童アンケート「タブレット活用のルールを守って使っている」の項目で、肯定的な評価95パーセント以上を目指す。

人材育成・組織運営

- 若手教員をOJT担当とし、主幹教諭が日程の調整、主任教諭が計画のサポートをしながらミニ研修会を実施する。
- 教諭に主任の仕事割り当て、教育活動における視点を広げる。
- 主任会を積極的に活用し、教員間の意思を統一しながら教育活動を行う。
- 授業観察並びに校内研究を通して、教員の授業力向上を図る。